

やわらぎ歯科会通信

第 30 号

平成 15 年
11 月 20 日号

編集 発行人
やわらぎ会
歯科診療所
藤田 和也
編集者
山下 剛史

再生医学の講義を

受けて

早いもので私が社会人大学院に入学して二ヶ月が経とうとしています。現在、歯科一般と再生

医学の講義に出ています。医学の進歩にはめざましいものがあることを実感しました。すでに、皮膚や骨の細胞を培養してやけどや関節の障害の治療に応用する方法は確立しているようでした。しかしながら、肝臓などの臓器の再生医療にはまだまだ時間がかかりそうです。

歯科の場合はどうでしょうか。歯には自己再生する能力がないので虫歯で出来た穴や歯周病などで失った歯は、人工的な材料で治さなければなりません。現在では歯科材料の進歩に伴い、虫歯の治療は、できるだけ歯を削らずに見た目にもわからなく治す方

法、歯を失ったら人工歯根を骨に埋め込んで新しく歯を作る方法などが実用化されています。

やわらぎ会歯科診療所では可能な限り、進歩した歯科医学を取り入れて、患者様のお役に立ちたいと考えています。

それにしても、一番大切な事は病気になるように予防する事だと思えます。患者様には毎日の日課としての歯のお手入れをよろしく願います。

かめるっち

インプラント治療を終えて

私は六十二歳、奥歯3本が抜歯治療を要する程悪化し、手入れを怠ってきた事を悔やみましたが、



どんな物でも自由に食し、今後健康に過ごす事が肝腎だと考え、

インプラント治療を受けました結果、自分の歯と同様な感覚で咀嚼できるようになり最新治療の効果に満足しています。治療に際して院長先生から、施術内容の分かりやすい説明を受け、安心して治療に臨む事ができたのは勿論、院長先生とスタッフの方々の責任あるチームワークで確実な治療を受ける事ができました。ここに紙面を借りてお礼申し上げます。人の身体は、部分的な損傷の治療にさえ、大変な労力と時間を要する事を今回再認識できました。身体を大切にし残された人生を積極的に楽しみたいと思います。

耳よりコーナー

去年十月より東京千代田区で始まった「路上禁煙」は徐々に公共の場での禁煙の波を拡げつつあるようです。広島でも駅のホーム・市電の電停においても禁煙になりましたね。

「たばこの害」は私たち歯科の世界にもあります。ヤニがつく、口臭がある、歯周病の問題など。それは、たばこを吸った人のお口の中に直接影響します。(厳密に言えば喫煙者と接する人も影響します)。なんとと言ってもお口の中はたばこの煙が入りする最初の臓器ですから。

禁煙を勧められても自分の身体だから好きにするさ...なんて言っていませんか？健康で長生きするために、たばことお口の健康について考えてみませんか？
(次号に続く)



ぺぱーみんと

十一月初め、登り窯(陶磁器を焼く窯の一つ)の窯焚きを手伝う機会があった。五昼夜のうちの十六時間程に参加した。

まず清めの御神酒をいただくから、薪運びや土運び、窯の温度の記録などをやるのだ。

先生の合図で薪を滑り込ませると、瞬く間に燃え上がる。勢いを増した炎は器の面を舐め、包み、土であったはずのそれには炎が写り輝いている。また薪を入れる、炎が変わる...

淡々と読み上げられる窯の温度、速くも遅くも感じる時間の流れ。

この季節に似合わない暖かい雨と、時折聞こえる蛙の声に包まれて、貴重な体験をさせてもらった。機会があればまた参加したい。

※同封していますレセプト(保険診療報酬の明細)のコピーは平成十五年十月にお受けになられたものです。自由診療のみの方には、同封されていません。

【患者様からのご意見・ご投稿を受け付けています。手紙・はがき・メールでどうぞ。 yawaragi@fujita.gr.jp】